

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム 花咲小町(小町)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果市町村受理日	平成25年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102848-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花咲小町の理念である「自然の恵を受けてありのままに」の精神の意味とする、新鮮な空気・太陽の光・暖かさ・清潔さ・静かさを適度に保ち、食事を適切に管理することにより、人間の持つ生命力を引き出し、心身の活性化につなげることを遵守すること。そして、利用者のありのままを受け入れることにより、心穏やかに過ごしていただけるような環境を提供しています。また、終末期の方には、最後までその人らしく生き抜くことを援助し安らかな死を迎えられるように職員一同誠意を持ってケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着の意義を踏まえ、地域との関わりを大切に、ありのままの生活ができるように、利用者の思いを支えている。そして、新鮮な自然の恵みを楽しみながら、生きる力を引き出し、穏やかな日々が過ごせるように、生活環境を整えている。法人は新たに、居宅介護支援事業を立ち上げ、地域の福祉拠点としての役割が期待されている。利用者の高齢化、重度化が避けられないなかで、最期まで、その人らしい人生を貫くことができるように、職員一丸となって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(小町)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵を受けてありのままに」を理念に掲げ、自然環境に恵まれた地域の中で利用者のありのままの姿を受け止め、思いを引き出せるようなケアを心がけている。	理念を玄関に掲げ、職員全員が朝礼で唱和し、意義を共有している。住み慣れた地域の中で、その人らしく、思いに寄り添い、ありのままの生活を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者や多くの職員は事業所のある地域で暮らしており、地元の皆さんと自然と交流を続けることができている。散歩や外出時に地域住民の皆さんと笑顔で挨拶をしたり顔馴染みになっている。	運営者を始め、職員や利用者も地元の人が多く、普段の交流を続けている。自治会の祭りなどの行事には、応分の負担をして、付き合っている。老人会で認知症の講義に出向いたり、介護相談窓口を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進協議会や自治会の会合に於いてホームの取り組みや生活について説明する機会を作り、理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ホームでの様子や行事をお知らせするとともに、ご家族や地域からの意見・要望等を聞きケアの質やサービスの向上に活かしている。	会議は隔月に開き、市職員や地域関係者、家族が参加している。運営報告と課題で意見を交わしている。重度化対応や祭りの準備、外部評価アンケートの疑問点を検討し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進協議会等に於いて市の担当者に助言・指導して頂きながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に出席した担当者に、実情を報告し、助言や指導を受けている。新しく開設した居宅介護事業の申請や運営などで助言を得たり、困難事例は、その都度相談し、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束による弊害を心得ており鍵をかけることなく利用者の安全に気を付けながら側で見守るようにしている。	身体拘束や言葉による心理的な拘束をしないように、周知・徹底している。玄関の鍵は、職員の手薄な時間帯を除き、開放して見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修をしており、職員間の情報交換や入浴時の身体状況等により虐待防止・早期発見に努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っており以前、成年後見制度を利用されていたご利用者さんがあったので、必要時には提案が出来るように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族等の不安や疑問を聞くように努め、管理者は契約の際には、施設内の雰囲気や生活の様子、職員の態度等を見て頂いき、書面で十分な説明と理解、納得を得て信頼関係を築くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の方が気楽に話しかけることができるような雰囲気を作るために、職員は常に声掛けや笑顔で対応し意見や要望を引き出せるように努力し、素早く対応が出来るように努めている。	利用者の重度化が進んでいるので、個々の思いを汲み取っている。家族からは、訪問時や運営推進会議で、意見・要望を聴いている。外出や夏場のシャワー浴を増やしてほしいなど意見があり、運営に反映させている。ただし、意思の疎通に行き違いも見られる。	家族とのコミュニケーションを、さらに深め、本音を引き出せるような、問いかけや関係づくりに期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者はほぼ毎日出勤しており、職員の意見等はいつでもすぐに対応している。また、月に1度は管理者と全職員の運営に関する意見交換や改善に向けた話し合いもなされている。	月例の全体会議で、意見や提案を話し合っている。個別ケアの改善や職員の勤務調整、向上心の持てる支援等を検討し、働きやすく定着できるように反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員が向上心を持てるようにキャリアパス制度を導入、資格や能力に応じて昇格する等、職員が意欲的に働けるよう配慮している。また、親睦会の場を設け職員同士が和やかに働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がさらにスキルアップできるように、一人一人の能力に合わせた研修を受ける機会を提供している。また、研修に合わせた勤務を調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や各会議等を通じて知り合った他施設の方の見学や情報交換が出来るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が歩んできた人生や、入居に至るまでの経過を理解し、本人の気持ちを受け止め寄り添うことで安心を確保し、徐々に信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談をする家族の立場に立ち、利用するまでの家族と本人の思いを受け止め、気兼ねなく不安や要望も話して頂けるように働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の実情、要望を見極め、他のサービス利用も視野に入れて安心・納得した上で可能な限り援助していくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する一される」という壁を作らず「共に過ごし 学び 支えあう」関係を築き、喜怒哀楽を共にし一緒に生活をしている家族として安心した生活をして頂けるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め、本人と家族の絆を大切にしながらスタッフと共に協力しあえる関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と馴染みの人や友人たちが疎遠になってしまうことなく、交流を続けていることが出来るように、気軽に会いに行ったり来てもらったりしている。また手紙や電話でも支援している。	地元の人やボランティアの中に、知人が多く、馴染みの関係を続けている。また、法人内の合同イベントを通じて、利用者同士が、親しく交流できるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の利用者の性格や周囲との関係を把握し孤立やトラブルを防ぐようにしている。また、利用者同士が助け合い穏やかにかかわりがもてるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人と家族の状況、これまでの経過や必要な情報を提供し相談等にも応じている。サービス終了後も変わらず良好な関係を続けていけるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らし続ける為に、本人の話しをよく聴き、思いや希望を把握できるようにしている。また、職員全員でその思い等をどうすれば実現できるか話し合ってその思いに近づけるように努めている。	日々の会話で、思いや意向を把握している。個々の人格や相性などに配慮しながら、その人らしく、思いに沿った暮らしが続けられるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活史を作成することにより、これまでの暮らしを把握しその人らしい毎日が送れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の健康状態や心身状態を記録するとともに、本人の好きなこと、出来ること、できないことを見極め、適切なケアを提供できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスやサービス担当者会議に於いて話し合いをし、その意見をもとに介護計画を作成している。	ケース検討会議で、現状と経過を評価し、本人・家族の意向を踏まえ、介護計画を作成している。定期的なモニタリングの結果や関係者の意見を聴いて、計画や見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や気づいたことを個別記録に記入している。ケアの実践や本人の様子の変化を職員同士で共有し今後のケアに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況、または、その時のニーズに合わせて臨機応変にサービスを提供できるように努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を有意義に活用しながら一人一人が社会の一員として安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように事業所全体で工夫していくよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関等の医師による継続的な健康管理を受け、その時々々の病状に合わせ、安心して適切な医療を受けられるようにしている。受診時には看護師が同伴し支援している。	かかりつけ医は、個々に選択している。隔週に協力医の往診があり、希望者が診察を受けている。総合病院や他科への通院は、看護師が同伴し、診療内容を家族に伝え、安心な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の管理者が看護師の為、利用者のおよとした変化や体調についても相談しやすい。一人一人が適切な医療支援が受けられるよう、日々の介護においても本人の状態に合わせて柔軟な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、必ず看護師が付き添い病院関係者にこれまでの既往歴や本人に必要なケアの情報提供をしている。入院中も現在の状態を病院スタッフに聞きながら主治医、家族、事業所との連携により早期退院に向けて実現できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を重視し、事業所全体で方針を共有し最後までその人らしく穏やかに過ごせるようにしている。また、主治医や家族の協力の下、状態変化にその都度確認しながら対応している。	重度化や終末期に対応するための方針を定めている。状態の変化に応じて、主治医と家族が十分に話し合い、介護職とも共有しながら、重度化・終末期に対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成しており、必要時に適切な行動ができるように研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害が起きた時に備え、年2回、地域の方も一緒に避難訓練に参加していただいている。また、利用者に合わせた誘導の方法、避難経路の確認、消火器の取扱い等の訓練を行っている。	年に2回、消防署や防災専門事業者の指導で、防災訓練を実施している。夜間想定や消火、避難誘導、通報など行っている。マニュアルや備蓄も備え、地域との協力体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活習慣や価値観を尊重しながら、一人一人の人格を傷つけない言葉遣いに配慮している。また、スタッフの経験や考え方を押し付けないよう介護、援助している。	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないように言葉かけを行っている。本人のテンポに合わせ、訴えを否定せず、優しく接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、利用者が十分に意思表示ができない場合でも、顔の表情や、全身での反応を注意深くキャッチして本人の意図として理解できるよう努力している。主体性を持って生活できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを乱すことなく、可能な限り柔軟な支援ができるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりや好み等を尊重しながら季節に合ったおしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや嚥下状態を把握し、旬の食材を取り入れるようにしたり、見た目も楽しめるように配慮している。また、職員も介助しながら一緒に頂き、和やかな食事時間を提供している。	自家栽培の野菜を食材にしている。利用者も能力に応じて、準備や片付けを手伝っている。職員も一緒に同じ食事を摂り、和やかで家庭的な雰囲気共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段から利用者の食べ物の好み習慣、食事の様子を把握し、体調や体重の増減を観察し個々に応じた食生活の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はもちろんのこと、定期的な歯科メンテナンスを受けることにより、口腔内のトラブルを防ぎ、清潔保持ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者に適した排泄方法を考え、必要な介助を見極め、排泄の自立に向けて支援している。	昼夜共、声をかけてトイレでの排泄につなげている。また、生活の場面ごと、事前にトイレへ促し、失敗を少なくし、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無や量を確認し排便チェックを行っている。また、便秘がちな利用者に対しては、食物繊維の多い食品、乳製品、水分補給等を摂取し、適度な運動も取り入れるなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決まっているが、本人の希望、健康状態等を見極め柔軟に対応している。	週に3回の入浴を基本にしている。状態により柔軟に対応し、清潔に努めている。重度者には、シャワー椅子を使用したり、併設の機械浴を活用している。湯温は好みに合わせ、ゆったりと入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムや体調に合わせ、安心安楽に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量について理解し、薬の飲み忘れや誤薬を防ぐために確実に服薬確認をするように心がけている。また、本人の状態変化にも対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、カーテンを開ける、新聞を折る等それぞれに役割分担があり、意欲的に生活できるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に出掛け季節感を味わうことができるように支援している。スタッフが必ず付き添い、安全に気をつけながら利用者の希望に添えるように心がけている。	周辺を毎日散歩している。状態に合わせ、庭での外気浴を支援している。重度化により遠方への外出は困難であるが、家族と協力して、近場へ出かけられるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者には家族の理解のもと自分で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人のプライバシーに配慮しながら、利用者が自由に電話をしたり、手紙を出せるように支援している。また、季節のお便りもだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感を刺激し、利用者一人一人の感覚や価値観を大切にしながら、毎日がたのしみを持って居心地良く暮らせるように工夫している。	共用の場には、観葉植物の鉢を、多数配置してある。貼り絵や生活の写真、絵画を飾って、落ち着けるように工夫している。ゆったりと寛げるソファで、窓越しの景色を眺め、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格や生活パターンを理解し、お互いにストレスを感じることがないように配慮し、一人一人がお気に入りの場所があったり、気の合うもの同士や、一人になれる空間の確保等に心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が一番安心して過ごせる場所にするためにも、馴染みのものや写真を飾ったりするなど、家族と相談して自由に持ってきていただいている。	使い慣れた整理タンスやソファを置いている。家族の写真やペットの写真など馴染みのものを飾り、安心できるように工夫をしている。暖簾や表札も個性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の身体機能の状態に合わせて、出来るだけ自立して行えるように援助している。また、建物内部はバリアフリーとなっている。車椅子の移動でも不便がない広さを確保している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町 (式部)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成25年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(式部)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然環境や良い地域性に恵まれ利用者が、のびのびと、自然に心落ち着き穏やかな生活が続けられる様支援している。 理念は、入口横にかかげ利用者、職員で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際お逢いした方と挨拶を交わしたり、立ち話などしている。登校途中の学生さんと、ベランダ越しに挨拶を交わす利用者もいます。夏祭りなどの行事には、ご近所の方々に声を掛け参加して頂き一緒に楽しんでいただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は、見学に来られた方や、相談に来られた方に丁寧に説明アドバイスが出来る様にしている。また、夏祭りなどのように、地域の皆さんの参加かをいただき、施設を知って頂く機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の方の意見や思いを知る良い機会であり、また、地域の方にも知っていただく機会なので会議での意見を大切に、職員全員で共有しサービス計画に反映させ家族、利用者の思いに沿ったサービス提供ができるよう支援する。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に、連絡を密に取り合い、ご指導をいただき協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や出入り口など施錠しておらず自由に庭に出る事が出来る。身体拘束による阻害やその人の尊厳を心得、不穏時は、側で寄り添い見守るケアを行っている。ケガや事故が無いよう職員は、連絡を取り合い支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者指導のもと、高齢者虐待問題に取り組んでいる。施設内では、職員が、小さな傷や様子の変化など、情報を共有し連絡をとり合い虐待防止に努めている。また、利用者同士の会話の中での言葉の暴力などにも常に気を付け支援している。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	以前、当施設に成年後見制度を利用していた利用者がみえその際、カンファレンスで勉強会を行い職員は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書により事業所の考え方を説明し納得いただいている。また、事業所の可能な事、不可能な事、生活上のリスク等に付いても説明納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全体に家族様の訪問が比較的に多いので、その都度意見や要望をたずねるようにしている。その意見等を職員が周知し、サービスに反映していくように努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は毎日出勤しており職員の意見や要望に柔軟に対処している。また、カンファレンスの際、皆が意見や要望を言いその事に付いて話し合える機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は職員の意見や要望に耳を傾け柔軟に対処し職員が働きやすいように環境を整えている。また、職員同士の親睦をはかるため食事会を数回行い職員の連帯を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に基づき、一人ひとりのレベルにあ合った研修に出席し、戻ってからも、他の職員に研修内容を報告し共有している。また、研修に参加しやすい様、勤務調整など配慮している。短い時間だがカンファレンス時勉強会もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者との交流の機会はあまりないが、研修の際に他の事業者の話を聴いたりしているうちで、参考に成る事を施設に持ち帰り職員に伝えサービスに取り入れることが有る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの場を多く作り、利用者の今までの人生、生活の把握につとめその人にとって今、何が必要か職員全体で何度も話し合い、統一したサービスを提供し利用者が安心して生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際など職員より声を掛け、困っている事など話しやすい環境を作りお尋ねし、近況報告など交えお話し家族の思いをふまえたケアを提供し安心して頂けるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時利用者より希望や要望を尋ねたり今までの生活をお尋ねし、出来そうな事など助言し新しい事やってみようという気持ちが出て来るような支援をする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員という関係ではなく、共に生活しているという事を一人ひとりが受け止め、出来ない事を助け困っている事を共に考えるという考え方をもち支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、近況報告をしたり、月1回「小町たより」を家族に送り生活の様子を知ってもらっている。また、季節の変わり目など寝具や服の入れ替えを一緒に行っていたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族のご協力を頂き、今までの行きつけの美容院や、お店などに出かけられる方がみえます。また、自宅で使用していた物を持ってみえている方もいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や能力を把握しており、その人に合った活動の場を作り、お互いの出来る事、出来ない事を分担し、お互いに助け合って暮らして行けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	街やスーパーでご家族と偶然お会いした時など、気軽に声を掛けお話している。盆や一周忌には、はがき等で故人を偲んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりを把握し、本人の意見を聞き意向に沿った支援が出来るよう、職員全員で話し合い支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートが製作されておりそれに基づき今まで、本人が歩んでこられた人生の思い出をより深く理解し共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、一人ひとりがどのように生活を送っているかの把握が出来ている。心身の変化など気が付いた事は、職員で連絡を取り合い出来る事は継続して行く、出来なくなった事は支援していくよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの際、利用者、家族からの希望要望に付いて、より多くの意見を出し合い、その方にとってより、良いサービス計画を作成、計画に沿った統一したケアの提供により利用者に安心して生活してもらええる支援を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルが作成してあり、利用者の日々の暮らしぶりや、身体状況、健康管理状態など記載されており、職員間での情報共有に使用されている。ケアの見直し、評価にも利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の負担を軽減するため、個別医療への受診の付添、一人ひとりの疾患、身体状況に合った食事形態の支援、個人の買い物支援をおこなっている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に、2～3回の割合で地域ボランティアの方々による歌や踊りがあり、利用者は、とても楽しみにされており懐かしい歌などを終わった後も口ずさんたり、覚えた事を自己にてやってみようとされる方もみえる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による、2週間に1回の往診が有り継続した健康管理を行っている。また、異変があった場合は、すぐに往診してもらえる体制ができています。状態により他の医療機関に受診する場合は、看護師が付き添って速やかに受診出来るよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に、状態の変化に気を配り、些細な事でも看護職員に連絡を取り相談、指示を受け介護職員全員で情報を共有し、看護師の指示に沿ったケアを行っている。看護師には、いつでも連絡が取れる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入、退院時は、看護職員が医療機関への情報提供、家族への連絡などを行っている。入院中も家族との連絡を密に取り、状態の把握に努め早期退院に向け関係者との話し合いを行っている。退院後も医療機関と連絡を取り合い、利用者が安心して生活できる様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「看取りケア」に付いて説明している。重症化、終末期の在り方に付いて、利用者、家族の意向を重視して、事業所として可能な限り、医療機関や家族の協力を得て、その人らしく最後まで生き抜く事が出来るよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時マニュアル」が作成されておりそれに沿った対応を行っている。異常の早期発見、対応に留意し看護職員との連絡を密に取っている。看護職員との連絡体制が出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回色々な場面を想定し避難訓練を行い職員全員で避難経路、避難方法の確認を行っている。自治会の方の参加も有り、日頃からご協力いただいている。災害時の備品も整備されている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーの確保に付いて、職員一人ひとりが認識している。特に言葉使いなど気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の好みや欲求の把握に努め、本人が決められない時は、その人の希望、願いを察して助言支援する。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの日々の生活の流れはだいたい出来ており、それを職員一人ひとりが把握している。強制やそのリズムの流れを壊す事の無いよう、安心して生活が送れるように見守り支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや、意向を尊重し利用者が持っている力に応じた支援をしている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューを掲示している。季節に合わせ旬の食材をメニューに取り入れるようにしている。誕生会や色々の行事の際は、利用者の意見を聞き、取り入れたり、工夫した物を作り楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った、食事量、食事の形態、バランスなど、考慮して食事を提供している。水分もその季節、身体状態を考え摂取してもらうよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは、徹底しており、忘れていた方には声を掛けている。全介助の方も職員がその方に合ったケア方法で介助支援している。	

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。その方の身体能力を見ながら、側で見守り、声を掛けその人に合った排せつ介助を行っている。たとえ失敗しても傷付けない言葉かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に、3時のおやつは、冷たい牛乳を飲んでもらったり、食事のデザートにバナナ、ヨーグルトなど出すようにしている。また、便秘気味であまり動かせない方には、歩いたり、少し身体を動かすよう声を掛け支援している。水分摂取にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴全介助がほとんどのため、常に、安全に気を配っている。その中で多くの方が「気持ちがいいね」と言って下さり週3回の入浴を楽しみにされている。着替えも本人と職員と一緒に準備している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な睡眠や休息がいつでも気持ちよく出来るよう居室環境や寝具を整えている。また、夜間安眠が出来るように、日中の活動を多くするように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人カルテに薬の説明書が入れてあり、職員各自把握している。誤飲や飲み忘れを防ぐため職員が、毎食後日付や名前を声を出し確認し服薬確認も行っている。また、薬の変更時は、看護師と連絡を取り合い状態変化に早期対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に応じた手伝いや出来ない方に出来る方が手を差し伸べている所を側で見守っている。自分の趣味などやっている方も見守り、要望があれば支援するなど、一人一人の残存能力を最大限に引き出せるような関わりを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り散歩に行き、地域の方と挨拶をしたり会話をしている。外出可能な方が家族の協力を得て週2～3回ほど買い物などに出かけられています。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じ所持管理している方もあり、家族の協力を得て買い物や食事を楽しまれています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いなどの製作を支援し、家族や友人に出している。電話は希望時には何時でも援助している。最近では、携帯電話を使用されている利用者もみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の設備は当施設の理念の実践に大きく関る事なので職員全員が気を配っている。また、安全に過ごす事が出来るよう注意している。リビング、廊下には、レクリエーションで皆さんが作った作品など展示して楽しんでいただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所当時より、皆さん気に入った自分の場所がきまっており、他利用者や職員もそれを把握しており安心して過ごす事が出来ている。会話される時も、好きなように移動されているのを見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族が相談され自宅で使用していたものや服、寝具などを持ってこられます。家族より相談が有った場合助言支援します。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室などは、好きな物や、自分の作品など好きなように壁に飾っている方もいます、危険でない限りは自由にいただいている。また、色々な事に興味を持たれる方には、側で見守り助言しながら行っていただいています。		